

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年6月7日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4671000273
法人名	医療法人微笑会
事業所名	グループホーム えがお
所在地	鹿児島県指宿市十町2392-2 (電話) 0993-22-4090
自己評価作成日	平成28年4月6日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年5月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同敷地内に運営母体である田畑クリニックがあり、急変時にはすぐに診察など対応が出来るほか、医療連携看護師による日常的な健康管理に加え、看取りに関しても連携による支援体制が整っているため、安心した生活を送ることができる。日常生活では運営理念の基に、ご利用者様のペースや思いに合わせた支援を行い、認知症の知識・理解についても院内外の研修・勉強会に参加することで、ケアの質の向上を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

指宿市の中心部に建てられたた当ホームは、歴史も古く、母体医療法人のクリニックが隣接している。24時間医療連携体制が敷かれ、夜間帯や緊急時の対応をはじめ、訪問診療や看護師による健康管理も密に行われ、日常的に適切な医療が受けられる環境にある。

法人全体の祭りは地域の恒例行事として、多くの地域住民も参加しており、利用者との貴重な交流の機会になっている。近隣とは長年の付き合いで野菜の差入れやお返しをする間柄が出来ており親交を継続している。

管理者は職員の教育に力を入れており、内外の研修を多く取り入れ、知識や意識を高く持ち、不安のないゆとりのあるケアを目指している。職員は新人からベテランまでキャリアや年齢層も幅広く、ミーティングでは活発な意見を出し合いサービスの向上に繋げている。現在、全員で取り決めた各役割を担当制とし、業務の共有や連携の強化を図るべく実践中であり、団結して取り組んでいる。

法人全体の訓練を含め、年に3回、避難訓練を行っている。構造に配慮し、いかに安全にスムーズな誘導を行えるかなど消防署のアドバイスを基に、検討を重ねており、常に利用者の安全管理を重視している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼で職員全員で斉唱することで理念の共有を行っている	開設当初からの独自の理念を大切に継続している。唱和や目視を基本に職員全員の共有とし、プラン作成にも活かし、実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昔からの馴染みの方から野菜を頂いたり、こちらからジュースにしてお返ししたりと交流が続いている。また、行事の時には参加して頂いている	地域の一員として自治会に加入し、奉仕作業の参加や回覧板等で地域の情報収集をしている。ホーム行事にはボランティアの慰問があり利用者と共に歌や踊りを楽しんでいる。馴染みの住民から農産物の差し入れもあり長年に渡り、地域との交友関係を築いている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	法人として地域の人々を招き年1回「伝ちゃん祭り」を開催している。その中で認知症や病気をテーマとした寸劇を披露し、地域の人々に認知症の人の理解や支援の方法を伝えている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や行事報告を行い市役所や知見者からアドバイスや民生委員・公民館長から地区の行事や出来事について意見を頂いている	利用者も出席し、家族や行政、他の関係者を含めて2カ月置きの定期開催である。ホームの現状報告を行い、課題について意見や要望を聞き取り、サービスの反映に繋げている。マンネリ化しつつある出席者や議題について、今後検討する意向である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所や包括センターに相談やアドバイスを頂き事業所に活用している	主に電話やメールでの連絡であるが、諸相談事は出向き、指導やアドバイスを受けサービスに活かしている。運営推進会議への出席もあり、ホームの現状への理解は得られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は家族の了承のもと一時的に行うことがあったが現在は行っていない。玄関には開閉ブザーを設置しており気付ける仕組みをとっている	利用者一人ひとりのその日の心身の状態を把握し、日中は職員間の見守りと連携で自由な暮らしを支援している。新人職員も多く、言葉使いやグレーゾーンの理解を深める研修を行い、現場での気付きは都度注意を払うなど管理者は研修や教育に力を入れている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止法の勉強会に参加し参加できなかった職員には伝達研修を行い、全ての職員が理解し防止に務めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている利用者がおり意見を伺ったり学ぶ機会を持っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の締結・改定時には十分に説明を行い理解や納得をさせていただける努力をしている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月ご家族へ状況報告を行い面会時には利用者がご家族へ何か要望がなかったか伺い反映させている</p>	<p>家族に向け、3カ月毎の「えがおたより」の他、毎月、個別の利用者情報を発信している。参加率の高い家族会や面会時、電話連絡時などを活用し意見や要望を聴取し、改善に繋げるように努めている。個別の通信内容を充実させる方針である。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員からの意見や提案をミーティングなどで話し合い反映させている</p>	<p>新人からベテラン職員までキャリアや年齢層も幅広く、全員でフォローし合い良好なコミュニケーションを築いている。ミーティングではシフト作成や行事、掲示物などを各担当制とし、全員で取り組む事を決め実践している。毎回、活発に意見を出し合いサービスの向上に繋げている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>主任会議の場や職員との対話で事業所の努力や勤務状況を把握している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	法人内外の研修を受ける機会を設け資格取得に向けて働きかけている		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	県などのグループホーム協議会に入会しており同業者との交流・研修会等の活動できる機会がある		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	サービス計画書作成前に本人の要望を伺い計画書を作成しサービス計画書の内容は職員みんなが確認している		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	家族からの要望や不安を伺い要望に添えるよう職員みんなが努力している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族からリハビリの要望があった利用者に対してはクリニックのリハビリステーションを利用している</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者に出来る作業を依頼し意欲ある暮らしを共に支え合う関係に努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	お盆、お正月には家族と一緒に過ごされるため外泊されたり、息子夫婦がご主人の命日、彼岸に外出され墓参りや食事をされたりと本人を支えている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室に来訪して頂きカットされたり宗教の会合へと外出する方もいて馴染みの関係が途切れないよう支援している	帰宅願望の強い利用者として、自宅周辺の懐かしい風景を見に出かける事もある。地区の訪問美容を利用したり、家族からプレゼントや年賀状が来ている。関係団体の方や友人の来訪もあり、個々が持つ馴染みの関係を維持出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士で声を掛け合っているが、耳が聞こえにくい方も多いのでその際は職員が間に入ったり、コミュニケーションをとれるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の医療機関に入院された際は見舞いに行き、家族の方の相談に耳を傾け話を伺ったり相談にのっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を把握し個々に合わせたケアを行っている	現在は半数程度が意思表示が可能な状況にある。会話や所作、表情などを注意深く観察し、気づきを記録している。個々の思いをより多く引出せるように職員間で共有を図り、利用者の思いに寄り添うケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族からこれまでの暮らしや生活歴を聞き取り、スタッフ全員が把握しサービスにつなげている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の様子を把握し一人ひとりに合わせたケアを心がけている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで一人ひとりの状況を話し合いモニタリングを行い介護計画へ結びつけている	毎月のミーティングで、モニタリングを行い、職員間で気づきや意見を採り入れて利用者や家族の意向に添う計画を作成している。利用者の状態変化に常に目を向け、プランを照らし合わせ現状に即した介護計画になる様に心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の記録を行い職員間で利用者様の情報を共有しながら、更に良い介護が出来るように努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズや利用者様が求めるものに答えられるよう。例えば、ミキサー食の方でも好きな物はそのまま食べられる人の場合、食形態を柔軟に見直すなど取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の訪問を楽しみにしている利用者が多く、その機会を出来るだけ多く作れるよう。一人一人が毎日を安全に豊かに暮らしていけるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族と連絡を取りながら必要に応じた専門医を受診することが出来るようにしている	隣接する母体の医療機関が主治医であり、月2回の訪問診療や毎週、看護師の訪問で早めの対応に繋げている。訪問歯科診療にも対応しており、他科受診は家族の協力を得ながら、常に適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>体調の変化に気付いたら看護へ連絡し、よりよい医療を受けられるように支援している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>利用者が急変し入院した場合は情報を提供し入院中や退院時も病院関係者と連絡を取り合いよりよい関係づくりに努め、早期退院することで認知症の進行予防に努めている</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化した時の意向を家族に聞き、事業所で出来ることは説明をおこなっている</p>	<p>入所時に契約書及び重要事項説明書にて重度化や看取りについての指針を説明し同意を得ている。段階に応じ主治医の判断のもと、家族と確認書を交わし、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。管理者は現在看取り経験のない新入職員もいることから、今後、知識を高め不安なく臨める様に研修の充実も計画している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>年2回の防火訓練の時に人工呼吸やAEDの使い方などを体験している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>昼夜想定し消防署の協力を得て火災訓練を実施。また、非常時に備え食料を備蓄している。</p>	<p>法人全体を含め、昼夜間想定 of 訓練を年3回行っている。消防署立ち合い時には、避難経路について意見やアドバイスをもらい、いかに安全、迅速に避難誘導ができるか、改善に向けた取り組みを行っている。地域との協力体制作りも継続して努力をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルをもとに更衣や排泄介助の際は、部屋のドアを閉めることや相手を尊う言葉遣いなど、利用者の尊厳権利を守るため誇りやプライバシー保護に努めている	職員は、利用者個々の性格やプライドを大切にしており、言葉使いや羞恥心への対応を周知徹底し、誇りやプライバシーの保護を重視したケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ご本人が自分の希望を訴えられるように、職員が一方的に決めるのではなく、本人の意思を確認してから行うように心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ希望が叶えられるように支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	利用者ご本人の好みを伺い購入してきたり、家族に依頼して準備してもらっている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嚥下に合わせた食事形態を工夫し提供している。簡単な下ごしらえも手伝ってもらっている	調理専任の職員が配置されており、旬の食材を用い、家庭的でバランスの取れた食事を提供している。半数近くの利用者が介助を必要としており、食事の形態や食べるスピードなど個々に合わせて食事が負担にならないように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分・排泄チェックをし利用者様に充分、声掛けを行っている。食事量が少ない日は、おやつや栄養補助食品で調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態や力に合わせて食後の口腔ケアを実施している		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせたパット使用や力に合わせて排泄の支援を行っている	各居室に排泄チェック表を置き、訪問の看護師等への情報提供や職員間の共有に活かしている。状況に応じ、おむつやリハビリパンツを使い分け、パターンの把握や観察でトイレでの排泄に向けた誘導や声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取量のチェックや声掛け、薬の調整も施行している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	利用者の状態や希望に合わせてシャワー浴しながら足湯をしたり、浴槽に入る方にはゆっくり入って頂く為に楽しい会話を心掛けて接し、利用者本位の支援を実施している	週に3回が基本であるが、個人差もあり、個々に応じ臨機応変に対応している。入浴するまでの負担感の軽減やゆったり入浴できる環境作りに配慮している。その日の状態を見極め、清拭や足浴などに切り替え常に、清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり自由に休める支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や内服薬一覧を活用し、薬に変更があった場合は連絡帳に記入し職員が把握するよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやおしぼり巻などの役割や、散歩・外気浴など気分転換の支援を行っている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や敷地内の四季折々の花を見たり果実ちぎりや花の植え替え等を楽しんでいる。	敷地内に、菜園や花壇があり、四季を通して日常的にちょっとした散歩コースになっており、土いじりを楽しむ利用者もいる。ホーム専用の車両はないが、系列の施設と連携を取り、日曜日や祝日を利用し、花見や初詣などに出かけ、外出の機会が多く持てる様に努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	利用者本人がお金を使うことがなく、家族から預かった小遣いをホームが管理している		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	公衆電話を使い自由に電話ができ、ハガキのやりとりの支援も行っている		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	居間や玄関には季節の花を飾り、廊下の壁には月々の行事をテーマにした手作りの絵や利用者の作品を飾り季節感を味わえるようにしている	ダイニングテーブルやソファが置かれ、日課である計算問題を解いたり、調理の下ごしらえなどを手伝い、個々が自由にゆったりと過ごせる共用空間になっている。気になる匂いや騒音もなく、壁には行事の写真や作品を飾り、利用者の日常生活が伝わる工夫もしている。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	共有スペースのソファや利用者の座席でくつろいでおられる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の介護度に合わせた居室空間や居心地が良くなる様にお手伝いをしている</p>	<p>使い慣れた品々を持ち込み、家庭の延長を感じ取れる居室である。周辺症状に対応し、家族と相談のうえ、シンプルにまとめられた居室もある。就寝時にベットサイドにマットを敷くなど、個々に応じたリスクへも配慮し、安心して暮らせ居住空間になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>見守りが必要な利用者にはすぐ対応できる居室の配置や転倒が気になる利用者などにも手すりなどの取付けをして見守っている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない